饒舌

芥川龍之介

青空文庫

始皇帝がどう思つたか、本を皆焼いてしまつたので、神田の古本屋が職を失つたと新聞に出てゐるから、ひどい事をしたもんだと思つて、その本の焼けあとを見に丸ノ内へ行かうとすると、銀座尾張町の四つ角で、交番の前に人が山のやうにたかつてゐる。そこで後から背のびをして覗いて見ると、支那人の婆さんが一人巡査の前でおいおい云ひながら泣いてゐた。尤も支那人と云つても、今の支那人ではない。平福百穂さんの予讓の画からぬけ出したやうな、古雅な服装をした婆さんである。巡査はいろいろ説諭をしてゐるが、婆さんの耳には少しもそれがはいらないらしい。何しろあんまり婆さんの泣き方が猛烈だから、どうし

たんだらうと思つて見てゐると、側にゐたどこかのメツセンヂア・ボイが二人でこんな事を話してゐる。

「あれは丸善の金どんのお母さんだよ。」

「どうして又金どんのお母さんがあんなに泣いてゐるんだらう。」

「なにね、始皇帝が今日東京中の学者をみんな日比谷公園の池へ抛りこんで、生埋めにしちまつたらう。それで金どんもやつぱり生埋めにされちまつたもんだから、それであんなにお母さんが泣いてゐるのさ。」

「だつて金どんは学者でも何でもないぢやないか。」

「学者ぢやないけれど、金どんはあんまり生物識を振まはすから、丸善ぢや学者つて綽名がついてゐるんだよ。だから警察で

も大学教授や何かの同類だと思つて、生埋めにしてしまつたのさ。」

するとその隣の、小倉の袴をはいた書生が、

「怪しからんな。名の為に実を顧みないに至つては閥族の横暴も極れりだ。」と憤慨した。

自分もそれは乱暴だと思つたから、

「実に怪しからんですな。」と書生の憤慨に賛成の意を表した。

書生は自分の賛成を得て大に知己を得たやうな気がしたのだらう。彼は自分の方をふりむくと、滔々としてこんな事を辯じ出した。

「万事この調子だから驚くです。かう云ふ事には最も理解がある可き文壇でさへ、イズムで人間を律しようとするんですからな。

一度(いちど)新技巧派と云ふ名が出来ると、その名をどこまでも人に押しかぶせて、それで胡麻(ごま)をする時は胡麻をするし、退治(たいぢ)する時は退治しようとするんですからな。我々青年はまづこの弊風(へいふう)を打破しなければいかんです。僕はこの間博浪沙(はくらうしや)で始皇帝(しくわうてい)の車に鉄(てつ)椎(つつゐ)を落させました。不幸にしてそれは失敗しましたが、まだ壮心が衰へた訳ではありません。」

かう云つて書生は、群集を麾(さしまね)きながら、

「諸君、憲政の擁護の為にあの交番を破壊しようではありませんか。」と絶叫した。

それに応じてどこからか石が一つ斜(ななめ)に空(くう)を切りながら、かちやりと音を立てて交番の窓硝子(ガラス)へ穴をあけた。その音で気がつくと、

自分は依然としてカツフエ・パウリスタのテエブルに坐つてゐる。かちやりと云つたのは、珈琲(コオヒイ)の匙(さじ)が手から皿の上へ落ちた音らしい。自分は黒いモオニングを着た容貌魁梧(くわいご)な紳士と向ひ合つた儘、眼を明(あ)いて夢を見てゐたのである。紳士は自分が放心から覚めたのを見ると、

「新年の新聞に何か書いてくれませんか。」と云つた。

「この頃は何も書きたくないんだから駄目(だめ)です。」

「そんな事を云はずに何か書いてくれ給へ。何(なん)でもいいのです。たとへば「新技巧派について」と云ふやうなものでも。」

自分はぎよつとした。事によるとこの紳士は自分の夢を知つてゐるのかも知れない。

「それでなければ「旧技巧と新技巧と」はどうです。」
「駄目(だめ)です。第一新技巧などと云ふ事は考へた事もありやしません。」自分はぶつけるやうに云つた。
「しかし何か書けるでせう。」
「書けば、あなたに頼まれて書くと云ふ事を書くだけです。」
「それでもいいから、書いてくれ給へ。」
紳士はポケツトを探(さぐ)つて、原稿用紙と万年筆(まんねんひつ)とを出した。外では歳暮(せいぼ)大売出しの楽隊の音がする。隣のテエブルでは誰かがケレンスキイを論じ出した。珈琲(コオヒイ)の匂(にほひ)、ボイの註文を通す声、夫(それ)からクリスマス樹(トリイ)――さう云ふ賑かな周囲の中に自分は苦(にが)い顔をして、いやいやその原稿用紙と万年筆とを受取つた。それで書い

たのが、この何枚かの愚にもつかない饒舌(ぜうぜつ)である。だから孟(まうら)浪杜撰(うづざん)の責(せめ)は寧(むし)ろ今自分の前に坐つてゐる、容貌魁梧(くわいご)な紳士にあつて、これを書いた自分にはない。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
　　1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
2007年6月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

饒舌

芥川龍之介

２０２０年　７月１３日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/